

令和7年度 大宮中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 大宮中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア 理科
			国語	数学	国語	数学	
3 年	学校	53	47	38	8.0	15.7	学校 472
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国 503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	51	61.8	44.8	48.1	37.4	43.8	4.9	6.6	15.2	14.9	9.2
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	48.2	54.4	6.1	5.8	11.1	8.6	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	48.1	53.2	6.8	6.5	12.1	10.0	7.4
2 年	学校	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大阪市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大阪府	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1 年	学校	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大阪市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大阪府	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※

※

※ 3年生の理科はA問題を選択

3 大阪市英語力調査（GTEC）

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	53	94.8	91.6	100.5	75.0
10月24日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし (数)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトル ラン (回)	持久走 男子1500m 女子1000m (秒)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
2 年 男 子	学校	52	31.38	26.27	47.23	51.77	79.81	7.77	199.70	21.36	42.96
	大阪市	—	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14	8.06	195.02	20.28	41.69
	全 国	—	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82	8.00	197.51	20.74	42.20
2 年 女 子	学校	—	25.10	25.10	52.10	48.33	53.53	9.25	168.87	11.90	50.19
	大阪市	—	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12	9.03	166.76	12.20	48.14
	全 国	—	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60	8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 大宮中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○全国学力・学習状況調査結果

【成果と課題】

＜国語＞昨年度の全国平均正答率と比べ、本年度は変わらず推移している中、本校の問題別正答率を見ると、読むことについては6年度より20p以上上昇している。しかし、その他の項目については下がっている。また、平均正答率で大阪府・全国を超えた問題もない。本年度は、言葉の特徴や使い方に関する事項が昨年と比べても大きく下がっており今後の対策が必要と考える。

＜数学＞【成果】全国と比較して、正答率が10.3ポイント低かったが、平均正答率の対全国比が前年度に比べて全領域で上がった。また、平均無回答率の対全国差が7.6ポイント縮まり、昨年度と比較して成果をあげることができた。【課題】全国と比較して「図形」の領域において、平均正答率の対全国比が13.5ポイントと大きく差があった。ICTを使って視覚的に捉えたり、身の回りのものと結び付けたりして考える必要があると考えられる。「記述式」の問題形式や、「思考判断表現」の観点が前年度と比較して低いことから、授業の中で考えを表現したり、他者と意見を交流したりする場面が少ないことが課題である。

＜理科＞IRTスコアは全国平均より31ポイント、大阪府平均より17ポイント低い。IRTバンド2の割合が多く基礎的な問題への対応はある程度できるが、バンド3以上の発展的な問題が解けていない傾向がある。記述式問題、特に自分で考えて答える問題で正答率が大きく下回っている傾向がある。ただ、無回答率は低い。ため、一生懸命問題に取り組む姿勢は見られる。

【今後に向けて】

＜国語＞昨年度の課題とした「読解力」は本年度は上昇しているが、言葉の特徴や使い方については大幅に下がっている。「読める」ようにはなっているが、「理解している」までは到達していないように思われる。それが「読めている」のに無回答率の改善につなげていないのではないかと考える。昨年度もあった「問題文や本文の理解が低いままでは正答を書くのが難しい」と考える。ことの改善には本年度も引き続き取り組んでいく必要がある。そのために、昨年度から取り組んでいる本文を正しく読み取り、「要約」「話し合い」「発表」などの活動を今後も継続していくことが必要。

＜数学＞教えあい・学びあい活動を通して、基礎的な学力を全体的に向上させる必要がある。また、考えを表現する活動を多く設定し、記述式などで自分の考えを答えられるように力を育てていく。

＜理科＞繰り返し学習による基礎学力の定着を図る。そのうえで、授業の中で「なぜそう考えるのか」を説明する機会を増やすことで思考力を育てる。また、実験結果やグラフなどから情報を読み取り、根拠を持って文章をまとめる機会を増やすことで、表現力も育てていく。

○中学生チャレンジテスト結果(3年生)

【成果と課題】

＜国語＞大阪府と比較して「読むこと」の領域において、正答率が低い。しかし、「書くこと」の領域では差があまりなかった。また、「記述式」の正答率も大阪府と比較して差がない。授業で自分の意見や考えを書く機会を多く設けているため、苦手意識が低く、正答率が上がったと考えられる。

＜社会＞平均点は大阪府と比較して、6.4ポイント低い結果となった。また分野別で見ると、歴史的な分野の方がより差があることもわかった。地理的分野においては、資料から読み解く問題に関して理解できることが困難なことがわかった。しかし、大阪府と比べると、無解答率が低く、正答率も大阪府よりポイントを上回っている問題も多く見ることができた。テストに対して、意欲的に取り組んでいる姿は見られたのではないかと考える。

＜数学＞平均点は大阪府と比較してマイナス5.8点であった。しかし、同集団の2年時は平均点と比較してマイナス7.6点、1年時はマイナス10.8点であったことから、平均点の差を縮めることができている。「データの活用」の領域では、大阪府の平均と比較して得点率が1.7ポイント高く、成果をあげることができた。しかし、「数と式」の領域では、大阪府の平均と比較して得点率が10ポイント近く低いことから、今後の対策が必要である。

＜理科＞1・2年生の内容に関して、全体的な正答率が大阪市の平均よりも低くなっている。また、3年生の内容に関してはかなり低くなっている。3年生になってからの問題演習量が少なく、1・2年時の学習の維持、3年生での学習の定着ができていないと考えられる。

＜英語＞チャレンジテスト前の対策の結果、リスニング問題においては、10問中4問が大阪府平均正答率を上回ることができた。残り6問に関しては少しだけ大阪府平均正答率を上回ることができなかった。文法についての選択問題では5問すべてが大阪府平均正答率を少し下回る程度だった。一方、書くことに関する問題(英作文、空所補充)では、対策したが7問すべてが大阪府平均正答率を上回ることができなかった。そのような状況ではあるが、書くことに関する問題においても平均正答率は20パーセントを下回ることにはなかった。

【今後に向けて】

＜国語＞文章を正しく読むことに関してまだ課題が残るため、「読解力」を身に付けられる授業に取り組みたい。

＜社会＞短答式で答える問題に対して正答率、無解答率が低いことがわかったので、繰り返し学習させることで、学力の定着を図りたいと考える。また、分野に関係なく、それぞれの学習が繋がるような授業展開にし、学習した内容が途切えないようにする必要があると考える。

＜数学＞今年度の数学科の目標である、計算問題の無回答率5%以内に、3問中2問がクリアしている。大まかな計算方法は理解できているが、計算の正確性や細かいところでの誤解や知識不足があるといえる。「基礎的な計算力」の定着に向けて、帯活動としての計算練習などで土台をしっかりと固める必要がある。

＜理科＞演習問題を解く機会を増やし、繰り返し学習の機会を増やすことで基礎的な学力の定着を図る。特に、化学分野の定着が弱いので、重点的に行う。

＜英語＞書くことに関する問題に対して正答した20パーセントをさらに伸ばし、回答を書いたが不正解だった50パーセント、無回答の30パーセントを正答にできるような指導を段階的にしていく。3年生の学習内容だけでなく、1、2年生の学習内容が定着していない層が半数以上いると考えられる。授業でも1、2年生の内容を復習しつつ、基本問題に重点を置きながら発展問題にも対応できるように進めていく。

令和7年度 大宮中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○大阪市英語力調査(GTEC)(3年生)

【成果と課題】

- ・リスニング指導において、幅広い問題に取り組んだため成果が得られた。また、同時に発音の指導を行ったため、短い発話ができた。
- ・帯活動にてイディオムのテスト、短い英作文の練習を重ねてきた。それらが英文をかけている生徒の割合向上に寄与している。
- ・まとまりのある文、文の構成を意識して学習に取り組んでいなかった。
- ・スピーキングの指導にかかる時間が少なかった。

【今後に向けて】

- ・リスニング指導は継続して幅広い問題に取り組むようにする。
- ・スピーキング指導にかかる時間を増やせるように指導計画を再考する。
- ・文法の基礎が定着していない生徒の割合が多いため、基礎の復習を可視化してから応用、発展問題へと取り組むようにする。
- ・まとまりのある文、文の構成を指導する。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

【成果と課題】基礎体力の向上につながるよう、授業時間内の活動量を確保できる授業展開をした結果、体力合計点において、大阪市平均(男)41.69、(女)48.14に対して、本校(男)42.96、(女)50.19であった。男子は1.27ポイント、女子は2.05ポイント大阪市の平均を上回った。また、全国平均(男)42.20(女)47.58に対しても本校は男女とも上回ることができた。

【今後に向けて】

今後、男子では持久走(全身持久力)、女子で50m(走力)が、やや大阪市の平均を下回っているため、男女それぞれの課題解決に向けた授業を展開する。